

ある人のことば

哲学的方向を区別する実際に重要な認識論上の問題は、どのような正確さの段階にまでわれわれの因果関係の記述が達しているかこの記述が正確な遂学的公式に表現されることが出来るか否かということにあるのではなくて、これらの関係に関する我々の認識の源泉が自然の客観的法則性であるのか、それとも我々の心の性質、一定の先天的真理を認識する等々という我々の心が持つている能力であるのか、という点にある。